

慶応二年正月二十五日より慶応二年正月廿七日まで

P8311399 right

廿五日酉 陰晴 朝第八時半此暖度六十五度(撰氏十八度)

昨夕前より頓(*)に暖を覚內衣一領を減ず、風波稍穏なり、今朝は□顧山なく

□□□り、夕五時比紀州大島を近く経過せり

廿六日戌 晴夕前陰催雨

海面平坦、今朝は遙に芙蓉鋒(*)と下田岬を望み午前十時比下田港を経過

(金港*4着)し第二時半比、浦賀港を過ぎ夕第四時十ミニユート過、金港へ着し錨を投せり

作之助は乗船、荷船廻し方差配のため外国人の舁へ頼み便船して上陸達三三郎源一は

荷揚並レノ一外兩人を仏ミニストル方へ案内の儀為心得、其内に神奈川方尋問船

出役有しに付、右船へ楽太を随へ乗組、演五ら心平も便船せり、運上所へ至る鎮台

P8311399 left

早川熊蔵は話合無し、新同僚朝比奈甲蔵並監察平山謙徳水主に邂逅(*)面晤

し支配向文吉金三郎其外役々出張し相□り、甲州外兩人と同船して(薄晩)宿の方へ

(御届)渡海の甲州と(羽沢亭)合宿す、(入本着御届御用状認め楽太持来す、即時調印して差立方を命ず、迎供呼寄等の義、宅状別仕立市便を以差立方達三へ托し遣す

荷揚げ差配等のため船へ残し敷、達三他兩人来り、荷揚げ相済レノ一外兩人案内いたし遣せし段、届に来る、尤御買上げ器械類積越し分は明日陸揚げの積り有し、自分

荷共本第十時過、久左宰領して着せり、甲蔵酒肴の享あり、酬うに小遠眼鏡

を以てす、平謙来り兩人より時勢の義、□に承り、□して夜二時に近し

廿七日亥 薄陰 正午暖六十度(撰氏十五度)

*1:頓に(とみ)に、急に

*2:芙蓉鋒(ふようほう)、富士山のこと

*3:邂逅(かこいあひ)、思いがけない出会い

*4:金港は神奈川港

()内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。